



# overlap

山根明季子 + 野口ちとせ

5/29(水) - 6/15(土)

PM 12-7 (最終日 ~PM5)

休廊 日・月・火曜

会期中催し (@ +1art)

### ●ライブ

日時 6/1(土) PM5~6

出演 Junya Hirano(environment 0g/remodel) DJ

料金 ¥2000

要メール予約 +1art(gal@plus1art.jp) 定員15名

### ●クロージング

日時 6/15(土) PM4~5

出演 野营地(パフォーマンス集団)

参加費 ¥500(予約不要)



作 山根明季子

曲 Akiko Yamane

振動と振動が重なること。

コンサートホールで聴かれる音楽は、他の音を雑音として排除・遮断してきた。かと思うと、集中して聴かれることを想定して作られた人為的な音楽同士が、密度の高い都市空間の中で意図せず重なり合っている状態に、よく出会う。自然環境となった人工物。音は空間に浸透して見えない重なりを編んでいく。

高度消費社会の中で走り続けなければならないこと。より多く生産したり成長し続けることが要求される仕組みから生まれる、意図されない過剰な重なり。の網目。

1982年大阪生まれ。京都市立芸術大学作曲専攻修了。西洋芸術音楽の文脈より活動を開始。フルオーケストラ、器楽独奏から各種メディアのための作品まで制作を続ける。肌感覚を通して資本主義下での過剰さ、痛み、可愛さなどを扱い、作品はこれまでにワルシャワの秋、ムジカノヴァヘルシンキ、N響Music Tomorrowなど国内外で上演されている。



空造  
間形

野口ちとせ  
Chitose Noguchi

生まれた瞬間に消えていく音は、私たちが絶えず魅了してきた。目に見える物体と違い、音という現象にはどこからどこまでという明確な境界がないからかもしれない。

私のインスタレーション「Overlap」は、山根明季子さんのテキストスコア「状態No.10 空間をピンクにする」を光で表現したものだ。光、映像、そして山根明季子テキストスコアのボックスセット、空間に配置したこれらの作品はすべて、透明シートにプリントしたピンクの濃淡を重ねることを想定している。音も色も繋がりが重なることでイメージを喚起する。ゆっくり重なりながら絶えず変化するピンクの空間が、スピーカーから流れる複数のBEATとさらに重なり、始まりも終わりもなくoverlapされていくように。

1990年初個展、以来国内外での展覧会多数。『音・空・観』と題した造形やインスタレーションを展開し、近年は作品を媒体に生活空間を共有するプロジェクトを行っている。2015年から開始した巨大な鉛筆のオブジェ《マララの鉛筆 For Malalas》をシンボルとしたマララプロジェクトでは、高知西南の町と連携し、高さ2~3Mの赤い鉛筆80本余りを公道沿いや道の駅、廃校、民家に立てた。途上国の女子教育を支援する赤い鉛筆は、持続可能な世界の実現を目指し、辺地でいまでも増殖している。

## 「プラスプラス プロジェクト」

「プラスプラス\*」は、音を素材にしたり、音をイメージした作品を制作する若手作家を支援する+1artの新シリーズ企画です。本展はその第5回目です。想定外の事態に揺れる、この激動の時代にあって表現行為はさらに多様になるでしょう。想定外の作品がこれから次々に生まれる予感がします。ギャラリー空間がその起点となることを期待します。  
【\*「プラスプラス;plus,plas!」は拍手音を表すスペイン語のオノマトペ。】

